

Stage Up

2005年

10月号

生涯学習情報誌
ステージ・アップ
通巻 No. 144



村野 恒雄 撮影 「秋の光」

もくじ

- 2 アカデミーの窓
- 3 まなびの広場
- 4 特集 インタビュー 鵜澤 久さん
- 6 芸術・文化ロード
- 7 まち・ひと・多面体／くらし百景 俳壇
- 8 イベントパーク

発行・財川崎市生涯学習財団
〈ホームページ〉 <http://www.kpal.or.jp>

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1
TEL 044(733)5560(代) / FAX 044(739)0085
ステージ・アップ直通 TEL 044(733)5811 E-メール: stage-up@kpal.or.jp

アカデミーの窓

かわさき市民アカデミーの情報

「ブックレット」ご案内

かわさき市民アカデミーでは、2000年12月よりブックレットの刊行を開始し今日までに年間4～5点のペースで、哲学・思想、文学、歴史、芸術、政治・経済など人文・社会科学の広範に渡るブックレットを22点発行してきました。その背景には、多くの研究者・識者に協力をいただいている市民アカデミーの講義の実績を、出版物という形で社会に広めてい

くという目的があります。また、聞けなかった講座の内容を知りたいという市民の要望に応える役割も担っています。執筆者は、各分野の第一線で活躍している先生方ですが、講義の際の口語を基調としつつ、初学者のために平易な文章にしてくださいました。90ページ前後にまとめているため、短時間で読みきることが可能です。今後は自然科学の諸分野のブックレットも発行していく予定です。

問い合わせ 事業推進室 ☎044(733)6626 Fax(733)6697

タイトル	著者名	価格
No.1 心を癒す	国立音楽大学教授・村井靖児	525円
No.2 食は文化なり	東京大学教授・樺山紘一	525円
No.3 明治の精神を考える	東京大学名誉教授・松本三之介	525円
No.4 ジャーナリズムの世界に生きて	元共同通信社社長・原寿雄	682円
No.5 憲法のいま・憲法とわたし	神奈川大学特任教授・奥平康弘	682円
No.6 文学の中の日本語	早稲田大学講師・塩崎紀子	682円
No.7 いま、宮沢賢治を読みなおす	東京大学教授・小森陽一	682円
No.8 ヨーロッパ美術における死の表現	慶應義塾大学名誉教授・海津忠雄	682円
No.9 ピアノ進化の歴史と演奏家	ピアノ調律師・村上輝久	682円
No.10 藤沢周平の世界へようこそ	ロシア文学研究者・和田あき子	682円
No.11 セザンヌを愛するために	桜美林大学名誉教授・末永照和	840円
No.12 日本文化と能・狂言	創価大学教授・坂井孝一	525円
No.13 「鎖国」を見直す	立教大学教授・荒野泰典	682円
No.14 グローバリゼーションとは何か	成蹊大学教授・遠藤誠治	682円
No.15 絵本編集者の眼	福音館書店相談役・松居直	682円
No.16 パリのカンディンスキー	東北大学名誉教授・西田秀徳	840円
No.17 子どもの本とは何か	青山学院女子短期大学教授・清水真砂子	525円
No.18 『平家物語』誕生の時代	早稲田大学教授・日下力	682円
No.19 麗しのサンクトペテルブルグ	一橋大学名誉教授・中村喜和	682円
No.20 文学に見る女と男・その愛のかたち	東京大学名誉教授・久保田淳	682円
No.21 社会福祉思想の革新	東京大学教授・山脇直司	525円
No.22 世界の中の日本経済	東京大学教授・伊藤正直	682円

講師紹介

モーツァルト年譜雑感

「音楽Ⅱ」コース 桜井 英臣

海老澤先生の「モーツァルトの旅あまた」に初めて出席しましたが、モーツァルトの研究では有名な先生ならではの豊かな内容に加えて、数々のエピソードや独特な見解、さらにはビデオなどを駆使されての映像や音楽により興味が増し、淡々とした中、ソフトに展開される講義は快く楽しいものでした。

充実した講義資料の中でも特に「年譜」は貴重なものでした。ハプスブルク帝国が、アメリカ独立やフランス革命などを経て激変する時代に影響されていく。そんな時代の中、35年という儂い一生の間に600曲余の作品を残したモーツァルト。「魔笛」の成功を垣間見ながら、未完の「レクイエム」の楽譜を残して生涯を閉じたという。モーツァルトが生きた時代の歴史状況をほとんど知らない私にも、その時代の様相がおぼろげに見えるようです。

海老澤先生といえばモーツァルト

「音楽Ⅱ」コース 天田 順子

海老澤敏先生といえば、もちろんモーツァルトです。研究も多岐にわたり、著作をあげればきりがありませんが、何と言っても代表作は「モーツァルト書簡全集」(白水社)でしょう。これは先生が25年をかけて、全6巻を高橋英郎氏と共に編訳された大作です。その確かなご研究と知識に裏打ちさ

プロフィール

海老澤 敏(えびさわ・びん)

1931年東京都生まれ。東京大学文学部美学美術史学科卒業。58年同大学院修了。現在は、日本モーツァルト研究所所長、新国立劇場オペラ研修所所長等を務める。かわさき市民アカデミーでは「モーツァルト」の講座を長年担当し、毎回好評。



れた講義は、多くの人を引き付け、アカデミーの中の人気講座の一つで、毎回新百合21ホールをいっぱいにしていきます。講座の中で先生がしてくださるミニコンサートも受講生の楽しみで、コンサートの日はいつにも増して多くの方が集まっているようです。二期会会員の林美智子さん(メゾソプラノ)、石野真穂さん(ピアノ)、奥様の小川京子さん(ピアノ・桐朋学園大学音楽学部教授)の演奏を度々聞かせていただきました。海老澤先生の語り口も大変穏やかで、奥様の演奏とも相まって温かいものを感じます。ご夫婦でいつも音楽やモーツァルトについて語り合っているのでしょうか。

ふれあいサマーキャンプ報告

平成2年から始まったこのキャンプは友好自治体との交流の中で、子どもたちが豊かな自然や文化に触れ、心身ともに健全に成長することを目的として実施され、平成16年までに3701人の子どもたちが参加しました。今年も209人の参加を得、7月末から8月後半までの間に北海道から宮崎県までの9コースで、ホームステイや野外活動を行ってきました。キャンプの中で、子どもたちがどのような経験をしてきたのか、その一端をご紹介します。より詳しい紹介は「ふれあいサマーキャンプ」のホームページ (<http://www.kpal.or.jp/summercamp/>) をご覧ください。



広大な畑でジャガイモを収穫した子どもたち

◆岩手県東和町◆

ふれあいサマーキャンプは平成2年、この町から始まり、今年で16回目になりました。岩手県の中央部に位置し、農業と牧畜を中心とした人口約10600人の自然豊かな町です。平成18年に、隣接する花巻市と合併します。

「岩手に行って」

白山小学校5年 木下 彰

バスから見る景色は田んぼや畑でいっぱいでした。その景色はきれいで岩手県ならではのものです。ホームステイ先で野菜の収穫や、流しそうめんなど自然を生かした生活ができました。家の人はとてもやさしかったです。ぼくは農家体験がありません。けれど、すごくおもしろかったので、もっと長くホームステイしたいです。

◆長野県富士見町◆

八ヶ岳のふもとにあり、高原野菜や花の栽培、清浄な空気と豊かな水を利用した精密機械工業や酒造りが盛んです。人口は約15600人。平成5年、川崎市と友好都市になりました。

「楽しかった八ヶ岳」

宮前小学校6年 坂本 恭子

富士見町特有の「おっこう祭り」に参加しました。とても大変だったけど川崎では体験できないようなお祭りでした。私たちのチームは賞状がもらえたのでうれしかったです。後で先生に聞いたら「この祭りは一位二位を決める祭りではない」と言っていました。その時私は「大勢で同じ喜びをかみしめる祭りなんだ」と思いました。二度とないとても素敵な体験だったので、この思い出を一生忘れないようにしたいです。



仮装してオッコウ祭りで楽しく踊る



古座川町田原海水浴場で遊ぶ

◆和歌山県古座川町◆

ふれあいサマーキャンプで最も新しく始まりました。人口約3900人の山の町です。町名にもなっている古座川の水は手付かずの自然を象徴し、町を通る熊野古道には、日本の古い歴史が刻まれています。

「友達」

暁星小学校6年 中込 峻

ぼくは今回、二人のよい友達にめぐまれました。二人ともすごく性格が良く、本当に心から「友達はやっぱり何よりも最高だな」と思いました。でも、いい友達ができるとその分別れがなくなるもので、本当に別れるのがつらかったです。写真をたくさんとり、住所や電話番号を教えあったので、また電話や手紙など書いて交流を深めていきたいと思えます。

◆宮崎県コースの市と町と村◆

日向市、門川町、東郷町、南郷村、西郷村、北郷村、諸塚村、椎葉村の8市町村は「日向東臼杵南部広域連合」という深い繋がりを持った特別地方公共団体です。山、川、海と多彩なコースで協力していただきました。

「小出さんのお宅にホームステイ」 向丘小学校6年 西原 佳

その家は受験生のお姉さんがいる家だったので「仲良くなれるかな」と思いました。でも、部屋に案内してくれたし、食事の時も寝る時もいっぱいしゃべってくれました。二日目、おじさんの船で海に連れてってもらいました。救命胴衣を着て船から飛び込んだり、ロープで船とつなげた板につかまって引っぱってもらって楽しかったです。「ホームステイ」というよりも「親戚の家にお泊り」という感じでした。おじさんとおばさんは「また来ない」と言ってくれました。

財団主催の講座・相談・貸館などの情報

まなびの広場

特集

インタビュー

観世流シテ方能楽師 鵜澤 久 さん

毎年、夏休みに川崎能楽堂で小学生を対象にした「能楽体験・鑑賞教室」(川崎市文化財団主催)が開催されています。この教室を15年前に立ち上げ、現在も指導を続けておられるのが観世流シテ方能楽師の鵜澤久さんです。鵜澤さんは父である能楽師鵜澤雅さんの一人娘として生まれ、小さい時から父親の稽古姿を見、能と共に育ってきました。今号では、男性がほとんどという世界で、舞台上で演じる数少ない女性能楽師として活躍している鵜澤さんに登場していただきました。

能は600年の伝統を持つ古典演劇。この伝統芸能の道一筋を歩み続ける鵜澤さんは、きりりとした物腰の爽やかな女性。師である観世寿夫先生との出会い、能の魅力や学びについて熱く語っていただきました。好きな言葉は「一心不乱」。「心を乱さず心を一つに結んで、大らかに演じたい」と言う鵜澤さんの能への情熱はつきないようです。



一心不乱 大らかに演ず

鵜澤さんは15年前に「夏休み能楽体験・鑑賞教室」を立ち上げ、その後ずっと指導されていますが、子ども向けの教室を始めようと思ったきっかけは何ですか。

鵜澤 当時小学校2年生だった娘が友達を誘って、私の父(能楽師の鵜澤雅さん)が演じる「葵上」を国立能楽堂に観に来た時のことがきっかけかもしれません。子どもたちは飽きてしまうだろうなと思っていたら、最後まで食い入るように舞台を見ていました。後日、その友達が書いた感想文を受け取りました。そこには「『葵上』という能を見た。女の人がやきもちをやいて鬼になってすごく怖かった。怖くて夜眠れなかった」と書かれていました。小さいながら「葵上」の能を見て、この感想を持っただけでも十分なのです。能は感性の働きかけが大事ですから、子どもは言葉への理解力が低い分、感性が鋭いので、小さいころに能に接し、更に古い言葉に耳慣れていれば、能の面白さもわかるのではと思いました。「先入観のない純粋な子どものうちに能に触れる機会を作りたい」と考えていた当時、文化財団の方にご理解いただき、子どもを対象とした「能楽体験・鑑賞教室」を開くことになったのです。

一体験教室にお伺いした時、子どもたちが白足袋を履いて、真剣な表情で舞っていたので驚きました。仕舞から笛や小鼓、大鼓、太鼓まで全て体験できるのはユニークですね。

鵜澤 今では、さまざまな都市で子ども対象の教室がありますが、15年前はまだ少なく、特に三本柱でやっているのは、現在も川崎市だけではないかと思います。

——その三本柱とはどういうことですか。

鵜澤 子どもたちに、五感を通して「能は面白いものなんだ」とわかってもらうために、一日目は、面や装束を見せて能の歴史などの話をします。二日目は、実際に体験し稽古する。三日目に「能」を鑑賞します。頭を使い、体を使い、全神経を使い能をみる、というのが三本柱の企画です。この形はかなり大変なことです。これを崩さず15年間ずっと続けています。けれど、当初は子どもたちをどう集めるかなどのノウハウもなく、ゼロからのスタートでした。チラシ作りや小学校を訪問しての広報活動も自分でしましたが、反応が薄かったですね。でも学校の先生をしている同級生を含め、いろいろな方の協力でようやく軌道にのりました。

5年目に、参加人数が減少し予算も減って教室開催が危ぶまれたのですが、私は、10年は続けたいと思っていました。その時に「支える会」ができ、寄付を募り危機を乗り越えられました。やはり物事が定着するまで10年はかかりますね。

今では川崎市の大事な事業として認められるようになりました。10年目と昨年に子どもたちだけで「土蜘蛛」の能を公演し、好評を博しました。

— 毎回ののくらの参加者がいるのですか？

鵜澤 毎年60人から70人ぐらいの子どもが教室にきていますので、15年間で延べ1000人近くに関わったことになります。反応のいい子にはこちらも積極的になります。そうではない子どもにも、その子のよさを引き出せるような教え方を心がけているつもりです。「面白い、また見たいな」という気持ちが芽生えるよう、まずは種を蒔こうと思っています。それと、この教室に参加したのをきっかけに「続けてやってみよう」という子どもには、月1回川崎能楽堂で稽古をしています。今は30人が稽古に通っています。小学生で参加して大学生になるまでずっと通っていた子どもも3人います。

— 能の魅力はどんなところですか。

鵜澤 私にとって能は、小さいころからごく自然に接してきましたので、自分を表現する方法は能しかないという感じでした。能は体を水平に保って肩も動かさない。登場するのは女や男や鬼や幽霊だったりしますが、常に構えと運びは同じで型もきちんと決まっています。すべて決まっているからこそ本当の自由がある。能がテーマとすることは古今東西変わらない事柄なので、一曲一曲の自分なりの解釈はさまざまに可能です。そして年齢と共に心も体もまた変わります。だから、その時々花を舞台に咲かすことができるのです。そういう無限の自由さを持っている芸能だと思えます。そして舞台は一期一会、長い間稽古してもその時その一瞬で消え去ってしまいます。そういうところが能の魅力かもしれません。



「夏休み能楽体験・鑑賞教室」で仕舞を教える鵜澤さん

— 能楽師として影響を受けた方は？

鵜澤 多くの方から影響を受け、今日の自分があると思いますが、特に観世寿夫先生と父からの影響は大きいですね。大学時代は、能をやっていきたくとも先行きが全く見えない時でした。当時「世阿弥の再来」と言われた観世寿夫先生に私はあこがれていて「稽古して欲しい」その一心でした。実際に先生に5年間教えていただきました。「考えなくても自然に手足が動くまで稽古しろ」とおっしゃっていましたが、そうするとどんどんセリフも出てきて、自然に体が動くようになるのです。先生のおっしゃる一つひとつの言葉が、まるで乾いた田んぼに水がしみこむように自分の体に染み渡っていくようでした。先生は「昭和26年に女性の能楽師が認められたが、舞台に一生立てないかも知れない。自分が捨石になってもいいという覚悟ならやりなさい。600年の伝統の中で女性能楽師が一代や二代で終わらないように」とも言われました。先生も模索しながら教えていらしたと思います。

私の小さいころ、父が稽古をしてくれた時、よく「違う違う」と言われ、何がどう違うのか聞くと「絶対に聞くな」と言うんです。自分で答えを見つけるまで何度も繰り返し語

られました。「型付」といういわば演出ノートを渡され「これで勉強して自分なりに演ってみろ」と。わからないなりに自分で型を解釈して、父に見てもらいました。あまりにも型として成りたっていないので、さすがに父も最後は笑っていましたが「教えてやることは簡単だが、自分で試行錯誤しなくてはだめだ」ということを言いたかったのだと思います。



「井筒」(伊勢物語より)の一場面。愛する業平の衣装を身につけて井戸に自分の姿を写す(太田宏昭さん撮影)

— 鵜澤さんにとっての学びとはどういうことですか？

鵜澤 さっきの続きですが、父はさんざん「違う」と言ったあと、たまにちょっと演ってみせてくれる時があります。それは私にとってチャンスですぐに見てまねるわけです。だから「学ぶ」と「まねる」の根源は同じかな。教える立場から言うと、まねがうまい人は上達が早いです。学ぼうという姿勢がある人、自分をさらけ出して向き合う人には、こちらの言うことが浸透しやすいですね。それと父がよく弟子たちに言っていたのですが「人に教えるからには自分が学ばなければいけない。教えるだけになってしまってはおしまいだ」と。

— これから目指す方向と抱負をお聞かせください。

鵜澤 世阿弥は花伝書の中で「五十有餘はてだてあるまじ」と言っています。五十歳になったら何もやりようがない。「これ以上うまくなるかどうかわからない。これまで培ってきたもので勝負していくしかない」ということです。この曲をどう演じるかは技術だけではない。人生に照らし合わせ、生き様が見えてくるような、もっと内面の心の部分が大事になってくる。「心・技・体」が美しいバランスをもっていくために、これからはなお一層日々の稽古を大事にしたいと考えています。そして、能にあっては性別を超えた「個」としての表現があると私は思います。「男性」「女性」ではなく、能は演じられるのだ、ということ発信していきたいですね。

能のことを外国の人の方が詳しくかたりします。日本人ならみんな一度は能に触れて、世界に誇れる能という芸能を少しでも語れるようになって欲しいと思います。

鵜澤 久さん (うざわ・ひさ)

1949年生まれ。観世流シテ方能楽師。「鏡仙会」所属。東京藝術大学邦楽科卒業。同大大学院修了。3歳で初舞台。能楽師である父・故鵜澤雅及び観世流鏡之丞家の故観世寿夫、故八世観世鏡之丞に師事する。13歳で初シテ「吉野天人」。その後「乱」「石橋」「道成寺」「定家」などを演ずる。91年9月から「川崎市定期能」に出演。数少ない女性能楽師として精力的に活動している。2004年、能楽の「重要無形文化財総合指定保持者」に認定される。2005年「川崎市文化賞」受賞。

藝術文化ロード

このコーナーでは、日本民家園、市民ミュージアム、青少年科学館、岡本太郎美術館の施設を紹介し、それぞれの館の特色や見どころを順次掲載します。今回は古民家の野外博物館である日本民家園からお届けします。

文化の秋～民家園の楽しみ方～芸能編

10月・11月は、民家園の行事も目白押しの季節です。特に11月3日(祝・木)文化の日は無料開園日で、毎年多くの方にご来園いただいています。この日一番のおすすめは、なんと言っても、船越の舞台で行われる民俗芸能公演です。



船越の舞台

船越の舞台は、志摩半島の大王崎に近い船越という漁村で、昭和38年まで村芝居が行われていた貴重な歌舞伎舞台です。安政4年(1857)建築で、回り舞台、奈落、花道、楽屋などをそなえ、舞台両脇の出語り(張り出し部)は、太夫や囃子方の部屋、花代(お金)を扱う人の控えの場などになっています。舞台公演は若者組が運営し明治20年ころまでは地芝居といって役者も村人でした。民家園に移築後、国の重要有形民俗文化財に指定されています。

今年の出演団体は3つ。すべて川崎市の団体で、お囃子あり、古民謡あり、可憐な舞ありの変化に富む内容となっています。準備をする民家園の側も、毎年のこととはいえ気が抜けません。たとえば引幕一つとっても、スイッチで自動開閉ではないので、はしごをかけて吊り、4人がかりで開けたり閉めたり、少し練習もして当日を迎えます。本番で、幕がすーと開いたら拍手! ちょっとつかえても大目に見て!の世界です。舞台の掃除から始め、袖幕・中割幕・一文字・引幕な

ど(20枚以上あります)を大きな木箱から出す瞬間は、ちょっとときどき、綱の張り具合一つで背景幕が傾いたりするので、責任重大です。正面のしきりと柱や花道の覆い板をはずし、客席にゴザをしいて…炉端の会(ボランティア)や博物館実習生(学芸員資格取得をめざす大学生)、警備の方、いろいろな方と準備して当日を迎えます。

当日は通常の出入り口(正門、奥の門～岡本美術館側)のほかに、合掌造り山下家(1階は蕎麦処)と船越の舞台(専修大学・ゴルフ場側)に臨時口を設け、全部で4箇所から出入りできます。芸能公演の他に、むかし遊び、実演、民技会作品展示会・頒布会もあり、大変にぎやかな一日となります。(学芸員 木下あけみ)

11月3日(木・祝) 入園無料! 日本民家園まつり

- ◆ 民俗芸能公演 13時半～14時半(船越の舞台にて)
出演団体: 宮内祭囃子保存会、登戸古民謡保存会、丸子山王日枝神社
- ◆ むかし遊び 11時～15時半(原家・作田家・広瀬家住宅にて)
わら民具着用やはたおり体験と子ども向け竹馬、輪なげなどのコーナー
- ◆ 民技会作品展示・頒布会 10/2～11/20(頒布会は期間中の日・祝のみ) 10時～15時(原家・鈴木家・太田家にて)
民具製作技術保存会による民具作品の展示・頒布会
- ◆ 伝統技術実演 11月3日(祝)5日(土)6日(日) 10時～15時
堂宮彫刻や彫金、市松人形など。協力: 伝統技術技法を保存継承する会



浦安の舞(丸子山王日枝神社)

●民家園「催し物案内」(10-11月)●

- ◆ 企画展示「伊那のくすり屋一信州・三澤家のくらし」～11/27(日)
企画展示解説 10/16(日)・11/20(日) 11時半
- ◆ 年中行事展示 10/1(土)～10/23(日) 刈り上げ(収穫祝い)
10/29(土)～11/23(祝) こぎ上げ(収穫祝い)
- ◆ 特別公開「国指定重要有形民俗文化財・船越の舞台」
11月の土日(11/5はのぞく) 11時～
- ◆ 古民家で聞くむかし話 10/1(土)・11/5(土) 13時半、14時半
- ◆ お茶会 10/2(日)・11/13(日) 11時～
和菓子付き一服300円。なくなり次第終了
- ◆ 実演「大工仕事」と体験「こども大工入門」10/23(日) 11時～

- ◆ 体験講座「綿の実から糸まで」11/13(日) ★事前申込み制
 - ◆ 映像記録上映会 10/9(日)「初山の獅子舞」
11/20(日)「影向寺の文化財」14時～
 - ◆ 床上公開 毎日1～2棟
 - ◆ 「実演」竹・わら細工、はたおり、紙すきなど日曜日
 - ◆ 「園内ガイド・解説」原則土曜日 14時～
- 詳細はお問い合わせください。雨天中止のものもあります。
問い合わせ: 日本民家園 ☎044-922-2181 Fax044-934-8652
交通: 小田急線向ヶ丘遊園南口徒歩12分、JR南武線登戸徒歩23分
<http://www.city.kawasaki.jp/88/88minka/home/minka.htm>

まち・ひと・多面体

入院中の子どもたちの学びを支援

— 聖マリアンナ医科大学病院「院内学級」 —

院内学級は、病気やけがなどで長期入院している子どもたちの学校教育を保障するために聖マリアンナ医科大学病院の協力のもと平成8年、川崎市立稗原小学校と菅生中学校の教室として、同病院内に設置されました。現在、小学生4人と中学生2人が在籍しここで学んでいます。子どもたちは、治療や処置、リハビリなどを優先させながら、体調に合わせてそれぞれのペースで学習を進めています。

小学部の院内学級は小児病棟の中にあります。鮮やかな絵が貼られた青いドアを開けると、そこは病院であることを忘れるような空間でした。壁には色とりどりの絵や歴史年表が貼られ、棚には児童書や図鑑、遊具などが並んでいます。

また、病院の敷地の一角に10㎡ほどの「院内学級農園」があり、子どもたちが先生と一緒に野菜の種をまいたり、水をやったりしています。外出がままならない子どもたちにとって、病棟から農園までの散歩が遠足がわりで、リュックサックを背負ってくる子もいるとのこと。夏にはミニトマト、キュウリなどがたわわに実り、それを病棟の幼児や看護師さんに分けてあげるそうです。

取材に伺った日は、一学期の終業式の日でした。病院内の一室に病院関係者や両校の校長が集まり、子どもたちの様子



小学部の授業風景 (提供写真)

を見守っています。小学生を担当する佐藤先生が「Aさんは割り算かけ算ができるようになりました。治療もがんばりました」「B君は計算がとても早く、ドクターと競争していました」と各人を紹介。その後、稗原小学校の三ツ橋校長先生が一人ひとりに声をかけながら学習記録を手渡していました。

佐藤先生は「長期入院の子どもにとって病室が生活の場です。学級では、それぞれの個性や好みを大切にしながら授業をしています。少しでも子どもたちの苦痛を和らげ心が潤うように、室内を飾ったり、季節の行事を取り入れたりしています」と話していました。

くらし百景

俳壇

高津句会

下心ありやに美男葛の実

色変へぬ松弁慶の墓守る

街の子の持て余しある通草の実

ジョギングのコースに拾ふ銀杏の実

翔ぶ蝶の影より秋の風立ちぬ

秋風や砂丘に草の種をもち

稲妻のしきりなる夜や島泊り

暗れ渡る運動会となりけり

立ちて聴く野外音楽黄葉散る

積む薪の切り口白し秋閑くる

ひと回り小さくなりぬ盆の母

行秋の店閑散と焼さざえ

いくたびも月にかざして踊の掌

倒木に亀十匹の秋日和

色変へぬ松を映して心字池

新米を食むときめきのありにけり

ちんまりと園児の椅子に敬老日

籤引いて席の決まりし菊脛

移り住む窓に大木柿の秋

雑駁の日々や遠山薄紅葉

新聞の豊漁告げる秋刀魚買う

朝白む微風と共に小鳥来る

花芙蓉閉じて日差し傾きぬ

遠浅の潮目さだかに秋澄めり

※高津句会は、海主宰の高橋悦男先生にご指導いただいて

おります。例会は第二日曜日、午後一時より四時まで高

津市民館で行っています。ほかに吟行会もあります。

問い合わせ 電話(八八八)二七八二 船坂

阿部 寿雄

綾部悠紀子

石関 武之

梅田 鈍男

大谷 茂

久米谷和子

癸生川 昭

下間 ノリ

菅田 栄子

松原 治美

村山 恵子

船坂ちか子

情報コーナー イベントパーク 講座・コンサート他

●川崎童謡の会・秋におくる「ふれあいこんさーと」

10月3日(月) 13時半開演、高津市民館。出演は高津佳(歌とお話)、長谷川幹人(エレクトーン)他。入場料2000円。☎(434)6417の川崎童謡の会事務局吉井さん。

●第5回MUZAランチタイムコンサート

10月6日(木) 12時10分開演、ミュゼ川崎シンフォニーホール。小林英之のパイプオルガン。500円。☎(520)0200の同ホール。

●パイプオルガンで巡るヨーロッパ紀行

10月23日(日) 14時開演、ミュゼ川崎シンフォニーホール。保田紀子(オルガニスト)、山本益博(トークゲスト)、朝岡聡(ナビゲーター)。2500円。☎(520)0200の同ホール。

●麻生童謡をうたう会15周年記念コンサート

11月5日(土) 14時開演、麻生市民館。「なつかしいうた」「子どもがつづるふるさとのうた」「ふるさとの四季・川崎」にちなんだ曲を演奏。指揮は坂口重泰、ピアノ伴奏石田洋子。1000円。☎(988)5032の菅原さん。

●川響第162回定期演奏会

11月6日(日) 14時開演。教育文化会館。ラフマニノフ「ピアノ協奏曲第2番」他。指揮横島勝人・ピアノ小田裕之。全自由席500～1000円。前売り券は川崎駅B E京浜楽器等で発売中。☎18時～21時☎080(3431)5750の川響専用ダイヤル。

●第11回しんゆり映画祭

10月7日(金)～10(祝)。会場はワーナー・マイカル・シネマズ新百合ヶ丘と新百合21ホール。上映作品▽浮雲▽帰郷▽いつか読書する日▽誰も知らない▽ウイスキーなど。前売り券500円～1300円。新百合21ビル生涯学習財団で10月3日(日)まで販売中。詳細は☎(953)7652の映画祭実行委員会事務局。

●男女平等かわさきフォーラム

～男女平等の輪をつなげよう・ひろげよう

10月31日(日) 14時、川崎市男女共同参画センター(すくらむ21)。広岡守穂・中央大学教授の講演。無料。手話通訳・要約筆記、保育を希望する方は、住所・氏名・☎・希望人数を記し、10月21日(金)までに☎又はFaxで申し込む。☎(200)2300、Fax(200)3914の市民局人権・男女共同参画室。

●第7回多文化フェスタみぞのくち2005

10月15日(土) 11時～15時。溝ノ口ノクティ2屋上。障がいのある人や外国人、子ども、高齢者等が参加し、相互理解と友情を育み多文化共生のまちづくりを促進。音楽、踊り、屋台、リサイクルバザーなど。☎(814)7603の高津市民館。

●市民健康セミナー「突然死と心室細動」

－AED(体外式自動除細動器)をご存知ですか

10月22日(土) 14時、中小企業・婦人会館。講師は佐々木俊雄・聖マリアンナ医科大学東横病院内科医長。無料。当日直接、先着100人。看護・処置・薬・医療福祉の各相談コーナーあり。☎(722)2121内線521の同病院総務課。

●南身館フェスティバル

11月5日(土) 6日(日) 10時～15時、南部身体障害者福祉会館。障害者団体・ボランティアサークルの紹介、施設・作業所の製品展示販売、バザー他。無料。☎(244)3971。

●玉川大学公開講座

10月開講の「森のきのこをみる」「実践伴奏法講座基礎」「紅茶を楽しむ」「小児救急法講座」など35講座の受講生募集。詳細は☎042(739)8895の同大学継続学習センター。

●平まなびあいグループAndante講座

①10月7日(金)「多摩川と語り川から学ぶ」。講師は田中喜美子・二ヶ領せせらぎ館館長。②10月21日(金)「わになって踊れば」岡本マルラ有子・ネパール舞踏研究家。③10月28日(金)「やさしさ・夢・勇気」斎藤次郎・教育評論家。宮前区平こども文化センター。時間10時から。①のみ10時半からせせらぎ館で。各1000円。☎☎・Fax(865)8056の堀内さん。

●東芝科学館科学実験教室「科学実験キャラバン隊」

10月8日(土) 13時～14時半。空気・音・電気の実験。対象は小・中学生250人。無料。要予約。☎☎(549)2200の同館。

●麻生区文化講演会「今、世界で動いていること！」

10月22日(土) 14時、新百合21ホール。講師は浅井泰範・武蔵野大学教授。先着300人。要整理券。麻生市民館等で配布中。☎☎(951)1300の麻生市民館内同文化協会事務局。

●創立126年専修大学風祭

11月3日(祝)～6日(日)、専修大学生田校舎(小田急線向ヶ丘遊園駅南口徒歩18分)。テーマは「虹～心の架け橋」。講演会、コンサート、模擬店等。☎☎(900)7830同実行委員会。

●DAISY編集ボランティア講習会

11月8日・15日の火曜10時、川崎区の盲人図書館。パソコンによる視覚障害者のための録音図書製作者養成。パソコン所有で操作ができる方15人(抽選)。1000円。☎10月25日(火)までに電話で。☎(211)3181内線161の同館。

●ミニ画廊スナック琴①写真②木版画・水墨

①は10月1日(土)～15日(土)まで、山田繁グループの風景作品。②は10月15日(土)～29日(土)まで、岡部信之の作品。作品の展示は無料。場所は幸区鹿島田。☎☎(544)0507。

●川崎・砂子の里資料館所蔵「浮世絵名品展」

10月16日(日)まで、川崎市市民ミュージアム。時間は9時半～16時半。アメリカで開催された砂子の里資料館所蔵約260点の浮世絵。一般500円。☎☎(754)4500の同館。

●メイド・イン・カワサキ現代美術賞作品募集

2006年1～4月に開催される「メイド・イン・カワサキ」展の作品募集。川崎の過去・現在・未来を表現するクリエイティブでパワフルな作品を。応募資格なし。募集期間は10月1日(土)～11月30日(木)。詳細は川崎市市民ミュージアム「メイド・イン・カワサキ現代美術賞」係へ。☎☎(754)4500。

今月の表紙

昨年、日本民家園と川崎文化会議の共催で「民家園を撮る」写真コンテストが行われ、65点の応募がありました。2005年3月に、日本民家園で25点の入選作品展が開催されました。今号の表紙はその中の一点で、宮前区在住の村野恒雄さんの作品です。